

ふつうに暮らせるしあわせ

けやきいきいき プロジェクト

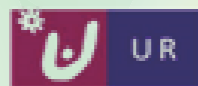
地域包括ケア豊明モデル



豊明市 健康福祉部 健康長寿課
愛知県豊明市新田町子持松1番地1 TEL:0562-92-1261



学校法人 藤田学園 藤田医科大学
愛知県豊明市沓掛町田楽ヶ窪1番地98 TEL:0562-93-2000(代表)



UR都市機構

愛知県名古屋市中区錦3丁目5番27号 TEL:052-968-3396



～産・学・官・民の地域包括ケア～

けやきいきいきプロジェクト

地域包括ケア豊明モデル



豊明市を取り巻く現状

1. 豊明市の現状

豊明市は、人口約69,000名が居住する名古屋市のベッドタウンです。特徴として、後期高齢者の人口の伸びが著しく高く、今後は地域が一丸となって高齢化社会に伴って生じる課題を解決することが求められています。

<豊明市概要>

人口：68,728名(うち65歳以上の高齢者17,483名)
世帯数：29,491世帯(うち高齢者世帯1,969世帯)
面積：23.22km² [2018.4.1 現在]



2. 豊明市の課題

豊明市の高齢化への進展に伴い、以下の課題が現在協議されており、高齢者が自立して生活できる・住みよいまちづくりを実現させることを目標として掲げています。

背景

- ・後期高齢者が著しく増加する見通し(2040年には85歳以上の人口が4倍となる見込)
- ・豊明団地を中心とした独居高齢者・高齢者のみ世帯の増加
- ・急激に増え続けている医療・介護ニーズと深刻な担い手不足

今後の課題

- ・一人あたりの医療が全国平均、県平均を上回る水準である
- ・在院日数の短縮、入退院を繰り返す住民の増加が予想される
- ・住宅を支えるサービスの不足、近隣市と比べて施設サービス利用率が高い
- ・急性期医療、地域医療、介護の連携・統合が必要となる
- ・軽度者の重度化を抑制する仕組み作り必要となる
- ・この10年間に後期高齢期を迎える世代の健康づくりが必要となる

高齢者が自立して生活できる・住みよいまちづくりを実現させることが重要

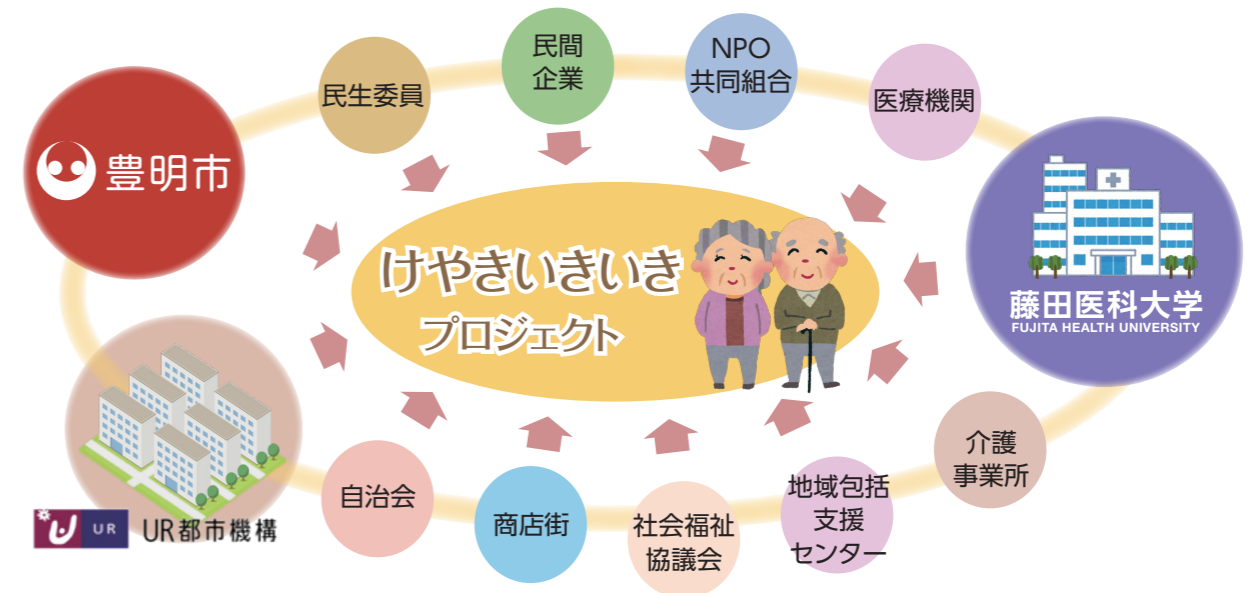
豊明市の地域包括ケアの取り組み

地域の課題を受け、豊明市が目標に掲げる市民の「ふつうに暮らせるしあわせ」を実現するために、豊明市は、市内の産・官・学・民の資源・知識を集約し地域の問題解決・環境改善に取り組む地域包括ケア事業「けやきいきいきプロジェクト」を立ち上げました。

けやきいきいきプロジェクト

1. プロジェクト連携体制

けやきいきいきプロジェクトでは、地域の資源・知識を集約するにあたり、藤田医科大学、UR都市機構、豊明団地自治会等をはじめとした団体や市民が連携によって成り立っています。



2. プロジェクトの実施内容

けやきいきいきプロジェクトでは、主に以下のような活動に取り組んでいます。

- 4つの分野におけるプロジェクト活動**P.03
 - ・統合ケア ～地域の医療機関等と連携した活動～
 - ・地域ケア ～地域の住民が主体となる事業に対する支援～
 - ・地域の医療・介護等のケアに関する教育
 - ・地域の医療・介護等に関する研究
- 医療福祉介護拠点「豊明団地」への資源集約**P.05
 - ・地域医療福祉介護拠点としての団地プロジェクト
- 産業界との連携**P.07
 - ・高齢者等が住みやすい居住空間の創出
 - ・民間事業者とのあらたなサービス開発

4つの分野におけるプロジェクト活動

INTEGRATED CARE / 統合ケア

地域の住民に対し、自治体・大学・医療機関・医師会等の各機関及び職種間の切れ目ないサービスを提供するため、以下のような取り組みを行っています。

◆多職種合同ケアカンファレンス

職種間の連携強化、多職種の視点を踏まえた総合的なケアの実現と質の向上、自立型ケアマネジメントの強化を図るため、地域の様々な医療関係者(地域包括ケアセンター・ケアマネージャー・医師・薬剤師・PT・栄養士・保健師・司法書士・サービス事業所等)が、月2回集まり、地域の高齢者等の自立支援や病状の重度化を防止するためのケーススタディを行っています。



◆地域連携ICT情報共有ツール「いきいき笑顔ネットワーク」の導入・活用

本ネットワークの導入により、医療・介護・福祉関係者が患者情報をリアルタイムに情報を共有する仕組みを構築しました。本ネットワークの患者同意は、要介護認定申請時に市役所の窓口で取得しており、これを地域の医療介護の「標準ツール」として活用することで、地域全体でのチーム医療・介護(統合ケア)体制を実現しています。



COMMUNITY CARE / 地域ケア

地域住民が主体となって、互いを支援する仕組み作りを支援しています。

◆地区のコミュニティによる開催「まちかど運動教室」

地域の高齢者が集いの機会を持ったり運動不足を解消できるよう、豊明市は各地区に介護予防運動指導員を派遣し、各地区のコミュニティが主体となって集会所での運動教室「まちかど運動教室」の開催しています。各地区の集会所を活用することで、遠出や外出がおっくうと感じる高齢者でも、地域の方々と気軽に声をかけあって参加できる環境づくりを支援しています。



◆住民主体の支え合いの仕組み作り「ちやっと」

「地域住民がお互いに支え合える仕組みづくり」を目的とした豊明市おたがいさまセンター「ちやっと」を2018年11月に開設しました。ちやっとに登録した住民は、自身の日常生活における小さな困りごとに対し他の会員からのサポートを受けることができます。またサポートした会員も、自身がサポートした時間数に応じて、自身が困ったときに、他の会員から支援を受けられます。



EDUCATION / 教育

地域全体が、地域医療・介護に関心を持ち、協力して事業を推進できるよう地域の住民・医療従事者・学生等に教育機会を提供しています。

◆地域住民への健康・予防教育

高齢者が多く居住する市内の集合団地「豊明団地」に「まちかど保健室」を設置し、藤田医科大学の教職員が、高齢者の健康・予防に関する支援活動を行っています。高齢者や子ども達が、日頃から自身の健康を意識し病気を予防することで、彼らが自立した生活を送れるよう支援しています。



◆学生の高齢者生活に関する学習機会の提供

豊明団地を所有するUR都市機構は、特別にリノベーションした住宅等、学生向けに70戸の住宅を提供しています。将来医療従事者を目指す学生は、団地内での高齢者に寄り添う生活を通じて、高齢者が抱える生活課題を実感するとともに、地域の福祉活動等に参加することで地域医療の重要性を学びます。

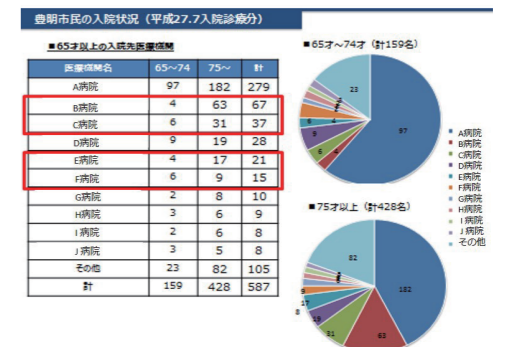


RESEARCH / 研究

医療介護に係る現状と課題を把握しその解決に取り組むため、市と大学がお互いの強みを活かしながら調査・研究をしています。

◆医療介護連携に関する地域の特色調査

地域の医療・介護機関等の連携に取り組むため、レセプト分析を通じた住民の退院後の経過把握や通院・入院動向の調査を行い、住民の健康に関する実態を把握し情報を蓄積しています。調査を通じて地域の住民の健康状態や病院利用に関する傾向を分析することができ、豊明市の医療介護連携に関する課題を抽出します。



◆退院後の切れ目ない医療提供に関する研究

藤田医科大学と市の共同で、国民健康保険・後期高齢者医療保険・介護保険レセプト等を独自に分析し、地域の市民が退院後どのように医療・健康管理を行っているのか、介護保険を活用できているのか等の実態を明らかにしました。地域全体で、市民の退院後も切れ目ない医療を届けるためには何が必要か共同で研究を行っています。

地域医療福祉介護拠点「豊明団地」への資源集約

豊明団地は、藤田医科大学と隣接しており、市全体よりも高齢化率が高く(約28%)、単身世帯、高齢者夫婦世帯が多く居住しているエリアです。こうしたことから、豊明団地を地域医療福祉拠点に発展させるための様々な取り組みを行っています。豊明市・UR都市機構・藤田医科大学・豊明団地自治会が中心となって、暮らしを支えるためのあらゆる資源を集約し、地域への情報発信・サービス提供を行っています。

この取り組みから始まる「地域包括ケア豊明モデル」は、経済・財政一体改革推進委員会(2016, 内閣府)、未来投資会議(2017, 内閣官房)に好事例として取り上げられました。



「けやきテラス」

団地の集会所であった建物を改修し、以下の施設を設置しました。

- 医療介護サポートセンター(在宅医療介護連携支援拠点)
- 在宅用介護ロボットモデルルーム RSH(Robotic Smart Home)
- 地域住民のコミュニティスペース「UR豊明団地集会所」
- 地域包括支援センター出張所



ロボティクスマートホーム



けやきテラス 外観

ふじたまちかど保健室

藤田医科大学の医療専門職(看護師や療法士等)が在駐し、市民の保健、医療、福祉の相談を平日毎日行っています。また、住民が気軽に参加できるもの忘れ予防・体操教室などのミニ講座を開催し高齢者への健康・予防の啓蒙を行ったり、レクリエーションの開催を通じて、通いの場を提供しています。



まちかど保健室 外観

健康・
予防支援

学生・職員の豊明団地居住

若い世代に、団地に居住してもらうことで、多世代が居住する「ミックスコミュニティ」の形成を目指しています。現在は、藤田医科大学で医療・福祉を学ぶ70名の学生が、団地に居住しながらイベント開催や地域ボランティアに年間3,000時間以上取り組んでいます。学生は、団地での活動を通して、社会の医療問題を自立的に考え、課題解決の取り組み力を養います。



地域住民とのイベント

地域の
ふれあい
教育支援

子育て
ワーカー
支援

病後児保育室「えがお」

病気の回復期(病状が安定していて、回復に向かっている時期)で、医師から病後児保育が可能と診断されたお子さんを、病後児専用施設で一時保育することで子育てワーカーの活躍を支援します。なお、お子さんの保育は担当保育士・看護師が行い、病状の変化に対応します。



地域の子供たちとの開所式

在宅医療
支援

豊明東郷医療介護 サポートセンター「かけはし」

豊明市・東郷町・藤田医科大学の地域包括ケア中核センターが中心となって、入院中の患者の退院に向けての悩みごとや、通院が難しい方の在宅療養について、地域の情報提供や相談を受け付けています。また必要に応じてスムーズな関係医療機関・介護事業所・行政機関等の連携も図ります。



豊明東郷医療介護
サポートセンター
かけはし

介護・
予防支援

北部地域包括支援センター出張所

団地周辺の住民が気軽に介護に関する相談ができる窓口として、地域包括支援センターの出張所を開設しています。具体的な介護予防サービス計画(介護予防ケアプラン)の作成、介護予防サービス事業者を紹介したり、サービス提供に関する調整等を行います。



産業界との連携

高齢者等がすみやすい居住空間の創出

けやきいききプロジェクトのあらたな取り組みとして、高齢者が各種ロボット、支援機器を用いて、自宅で安心快適に生活できる空間「高齢者向けスマートホーム」の創出を目指し、「ロボティックスマートホーム」を整備しました。この施設には、愛知県内を中心とした多くの企業が開発したロボットやシステムが設置されており、それらの実証実験が行われています。また、藤田医科大学のリハビリテーション部も参画して開発された各種機器も設置されており、新しい在宅生活の形を模索しています。

ROBOTIC SMART HOME



ロボット・システム開発関係団体

参画企業: トヨタ自動車株式会社、日本電信電話株式会社、株式会社モリトーブラザー工業株式会社、株式会社 LIXIL、トヨタホーム株式会社

民間事業者との新たなサービス開発

急激に増大する高齢者の生活ニーズを医療介護専門職だけでカバーするには、限界があります。豊明市では、公的保険だけでは対応できない高齢者の生活課題を解決する民間企業のサービスを地域に創出し根づかせていくため、行政が積極的に高齢者と民間サービスのコーディネートを行っています。

民間企業

フィットネスクラブ・掃除サービス業・食品メーカー・スーパー・温泉施設・学習塾等



自治体・大学

豊明市・地域包括支援センター・大学等

地域に住む高齢者のニーズについて、民間企業と協議

企業との連携事業



温泉施設で理学療法士による健康講座



スーパーによる店舗購入商品の無料配達



医療機関・民間企業の共同乗り合い送迎サービス「チョイソコ」



カラオケボックスを利用した体操教室

民間企業とのサービス創出・促進に関する協定締結

豊明市は、全国初の試みとして「公的保険外サービス創出・促進に関する協定」を13社と締結しています。

本締結を機に、民間企業は、高齢者のニーズをもとに新たなサービスを創出し、市は民間企業への地域の課題や高齢者のニーズの提供と新しいサービスの地域への情報発信を行います。

